

組織目標評価報告書（令和4年度）

部局名：

大学院医歯薬学総合研究科 薬学系

部局長名：

小野 敦
医歯薬学総合研究科副研究科長

目標・取組		目標・取組の達成状況(成果)及び新たに生じた課題等 (部局での検証とそれに対する取組)
①教育領域		
	関連する 年度計画の番号	教育領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等
<p>【教育の実施体制】 ①博士前期課程を含む連携大学院在籍学生や社会人学生に対するオンライン授業体制を継続整備する。②FD部会(学部と共通)主催による教員FDを定期開催し、教育の質の検証並びに改善に努める。③大学院改組、および学位プログラム化に対応するカリキュラムを作成する。 【教育方法】 ①電子メール、Moodle等を活用し、受講生と教員の意思疎通を図り、特に連携大学院在籍生のオンラインでの受講への対応に留意する。②配属研究室以外の教員を副指導教員とし、学生支援体制の強化を図る。③各種サポートが必要と思われる学生(病気、障害、不登校等)に対して、担当教員を選定しフォローすることで、学生支援体制を強化する。④休学者数の低減および復学後のフォローアップに努める。 【教育の成果(学習の成果、卒業後の進路)について】 ①卒業後の進路に関する意識調査結果に基づいた検証を継続し、大学院修了生の就職率100%を目指す。 【その他】 ①大学院定員充足を見据え、学内のみならず学外からの入学者獲得のため大学院入学説明会を開催する。②薬学系ウェブサイト内において、博士前期課程、および後期課程の教育システムに関するページを整備、再構築する。 【国際共同による教育の状況】 ①博士課程・博士後期課程への外国人留学生の受け入れを組織的に推進するために、ONECUS受入可能な薬学系教員の情報を提供する。②海外からの博士課程進学志望者に対し、海外特別入試を実施する。 【外国人留学生の受入状況】 ①博士課程在学中のハイフォン医科薬科大学教員1名に対する研究指導を継続実施する。②博士課程入学志望のハイフォン医科薬科大学教員1名に対する研究指導体制を構築する。</p>		<p>【教育の実施体制】 ①対象者がいる全授業は、対面+リアルタイム配信、あるいはオンデマンド形式でのオンライン対応とした。また講義室に関して、主に大学院講義での使用を企図した配信・撮像設備の増設を検討している。②FD部会主催による教員FDを実施し、新年度からの学位プログラムの説明会を開催、議論を行った。③大学院学位プログラムのカリキュラム全般の整備、シラバス作成を行い、体制を整えた。 【教育方法】 ①電子メール等を活用して受講生と教員の積極的な意思疎通を図り、問題点があれば改善に努めた。②配属研究室以外の教員の副指導教員設定を複数回にわたり教員に促し、学生支援体制の強化を図った。③各種サポートが必要と思われる学生(病気、障害、不登校等)に対して、担当教員を選定し、面談やメール連絡などのフォローを行うことで、学生支援体制を強化した。④学生支援体制に基づき、休学者数の低減および復学後のフォローアップに努めた。 【教育の成果(学習の成果、卒業後の進路)について】 ①在学生・修了生を対象に、大学院進学や修了後の進路・研究活動に関するアンケートを実施した。また、修了生を対象とした修了後の調査を行うための体制を検討している。 【その他】 ①大学院入学説明会を対面とオンラインで開催した。②薬学系ウェブサイト内において、博士前期・後期課程の教育システムに関するページを整備し、合わせて連携大学院に関する案内を充実させた。 【国際共同による教育の状況】 ①博士課程・博士後期課程への外国人留学生の受け入れを推進するため、ONECUS受入可能な薬学系教員の情報を提供した。②海外からの博士課程進学志望者に対し、海外特別入試を実施した。 【外国人留学生の受入状況】 ①博士課程在学中のハイフォン医科薬科大学教員1名に対する研究指導を継続実施した。②博士課程入学志望のハイフォン医科薬科大学教員1名に対する研究指導体制を構築し、10月から博士課程学生として受け入れ研究指導を開始した。</p>
②研究領域		
	関連する 年度計画の番号	研究領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等
<p>【研究の実施体制ならびに実施状況】①連携大学院である国立医薬品食品衛生研究所とのプロジェクトを引き続き遂行する。②コロナ禍で中断していた国立衛研薬理部門との連携プロジェクトを再開を図る。③環境省国立水俣病総合研究センターとの共同研究体制を継続し、今後の連携大学院化を探る。④上記の取り組みをHPなどで紹介するとともに、大学院入学説明会を実施し、多様な大学院生を引き続き募り、リカレント教育を充実させる。 【研究資金の獲得状況】①科研費を含む外部資金獲得に関して、引き続き教員全員が応募・採択するよう努める。また、応募件数も教員当たり1以上にし、複数の科研費に応募する教員数を増やすように教員会議やFDを介して周知する。②採択率向上を目的とし、有志教員による調書の添削や講習会を実施する。 【国際共同による研究の状況】博士後期ダブル・ディグリーでの国際共同研究を推進する。 【女性・外国人研究者の受入状況】ハイフォン医科薬科大学からの受け入れを引き続き行う。 【外国研究機関における研究従事状況】インド国コルカタ市のコレラ及び腸管感染症研究所との国際共同研究を継続して推進する。</p>		<p>【研究の実施体制ならびに実施状況】 ①国立医薬品食品衛生研究所連携講座の博士修士課程を2名の学生を受験し、合格した。②薬効解析学研究室(上原教授)と国立医薬品食品衛生研究所薬理部門および環境省国立水俣病総合研究センター 基礎研究部との共同研究体制を実施した。③上記の取り組み成果や成果を公表し、学内外へアピールすると共に、リカレント教育の一環として、薬学部公開講演会やHPで紹介した。 【研究資金の獲得状況】 ①科研費を含む外部資金獲得に関して、教員全員が応募・採択するよう努めた。また、応募件数も教員当たり1以上にし、複数の科研費に応募するように、教員会議を介して複数回にわたり周知した。②採択率向上に向け、全学開催の講習会への参加を促し、有志教員による調書の添削を実施した。 【国際共同による研究の状況】 ①博士後期ダブル・ディグリーでの国際共同研究を推進し、学位取得に繋げた。 【女性・外国人研究者の受入状況】 ①博士課程でのハイフォン医科薬科大学教員1名(女性)との国際共同研究を継続実施し、博士課程10月入学のハイフォン医科薬科大学教員1名(女性)との国際共同研究を開始した。 【外国研究機関における研究従事状況】 ①インド国コルカタ市のコレラ及び腸管感染症研究所内に設置の研究拠点に薬学系の教員2名が常駐し、国際共同研究を継続して推進した。</p>
③社会貢献(診療を含む)領域		
	関連する 年度計画の番号	社会貢献(診療を含む)領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等
<p>【地域社会との連携、社会貢献】 ①地域の職能団体やその他の専門職組織ならびに学術団体と連携し、基礎科学から応用薬学までの幅広い分野に対応する卒前・卒業後教育等を実施することで、薬剤師や薬学関係職種就業者を対象とするリカレント事業や研修事業への参画を推進する。また、中学校や高等学校と協力し、中学生・高校生の薬学への関心と理解を深めるための教育連携事業を進める。②広く一般市民を対象とした対面およびオンライン形式の公開講座等を開催して薬学医学に関する最新の情報を科学的エビデンスとともに提供し、薬・健康・保健衛生・医療にかかる知識啓発と涵養に努める。③各種講演会や地域開放型行事にあわせて薬用植物園の一般公開を実施し、来学者や地域の皆さまに自然と健康とのかかわり、植物と薬・薬学とのかかわりを感じ、深く考える機会を提供する。 【国際交流・協力】 ①成均館大学(韓国)、ハイフォン医科薬科大学(ベトナム)、サン・カルロス大学(フィリピン)との連携をさらに深めるとともに、交流協定(新規)締結に向けてバンメート大学(ベトナム)との協議を進める。 【その他】①COVID-19の流行状況に留意しながら、岡山大学ホームカミングデーその他の機会を設ける等により、同窓生・卒業生・在校生の交流の活性化を図る。</p>		<p>【地域社会との連携、社会貢献】 感染症再拡大が懸念される状況であったが、参加者を十分な防疫知識を有する薬剤師に限定することで、対面形式で公開講座「現代の薬学」を開催した。37名の参加があった。公開講座は一講義90分で3講義の長時間であったが、中途退出者もなく、質疑応答も盛んであった。このように対面形式としたことで、オンライン形式よりも高い卒業後教育効果が得られたと考えている。高校生向けには、薬学部講義を体験する形式で公開講演会を開催した。開催形式は、近隣のみならず遠方の高校生も参加できるよう対面とオンラインの2形式としたが、参加者の4分の3が直接来学され、結果として対面参加者数99を数える盛会になった。公開講演会については、薬学への関心と理解を深める機会を多くの高校生に提供できたと評価している。 【国際交流・協力】 ハイフォン医科薬科大学(ベトナム)、サン・カルロス大学(フィリピン)を訪問して情報交換を行ない連携を深めた。 【その他】 岡山大学ホームカミングデーにおいて薬用植物園の一般公開を行うとともに、薬学部の同窓会組織主催の同窓会シンポジウムを共催し、感染症再流行の抑止策を講じつつも、卒業生、同窓生、在校生の交流機会を提供することができた。</p>
④管理運営領域		
	関連する 年度計画の番号	管理運営領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等
<p>【部局運営体制の改善強化】 ①医学系、歯学系との継続的な協力により、部局運営体制の改善強化を進めていく。②各種会議における審議事項を見直し効率化するとともに、中期目標・中期計画の達成に向けた議論の活発化を図る。 【部局組織の活性化】 ①適切な部局運営を行うために、医学系、歯学系と継続的に協力していく。②ICTやDXの活用により部局内の情報共有や議論の効率化および活性化を図る。 【ダイバーシティの推進】 ①女性教員のさらなる採用や昇進等の可能性に関して引き続き検討する。 【効率的・戦略的な予算配分・執行】 ①省エネ意識の喚起等によって経費節減を図るとともに、各委員会等の実施計画等を精査し、引き続きより効果的な予算執行を目指す。 【安全衛生に対する配慮】 ①適切な管理活動計画を立案し、それに基づいた適正な安全衛生活動を推進する。 【施設整備の推進】 ①安全・安心な教育研究環境を確保するため、現有施設の点検および機能改善整備を推進する。 【法令遵守の徹底】 ①情報セキュリティ、適切な会計処理、適正な研究活動等に関して、継続的に法令遵守について啓発するとともに、講習やwebシステム等による確認と周知を図る。</p>		<p>【部局運営体制の改善強化】 ①大学執行部で示されたリストに従い、各種会議における審議事項の見直しを行い、中期目標・中期計画の達成に向けた議論を行った。 【部局組織の活性化】 ①各種会議のオンライン化、配布資料のペーパーレス化を進めた。研究や教育における関連他部局との連携や協力の検討を行った。 【ダイバーシティの推進】 ①女性教員のさらなる採用や昇進等の可能性に関して、継続して検討した。 【効率的・戦略的な予算配分・執行】 ①省エネ意識の喚起等によって経費節減を図るとともに、各委員会等の実施計画等を精査し、より効果的な予算執行を行った。 【安全衛生に対する配慮】 ①適切な管理活動計画を立案し、それに基づいた適正な安全衛生活動を推進した。 【施設整備の推進】 ①安全・安心な教育研究環境を確保するため、現有施設の点検および機能改善整備を推進した。特に大学院講義のオンライン対応のための教室設備の更新を行った。 【法令遵守の徹底】 ①情報セキュリティ、適切な会計処理、適正な研究活動等に関して、継続的に法令遵守について啓発するとともに、講習やwebシステム等による確認と周知を図った。</p>

注1) 本様式全体が1ページに収まるよう作成してください。

注2) 自己評価による達成度(5~1)は非公表項目とし、組織目標評価結果を公表する際に消去します。